

ユニセフ 第46回 ハンド・イン・ハンド募金 HandinHand

今年のテーマ「子どもたちの健やかな成長を守ろう」

2024年は子どもの権利条約採択35周年。日本は、1994年に批准し現在、全世界で196の国と地域が締結する、世界でもっとも広く受け入れられた人権条約となっています。今回のハンド・イン・ハンドでは「生命、生存及び発達に対する権利」がテーマです。さまざまな参加方法があります。どうぞ、ご参加ください。(写真は昨年の様子)

1 街頭募金に参加する 街頭募金のボランティアを募集します!

盛岡市

日時 2024年**12月8日(日)** 11:00~12:30

会場 ・カワトク・MOSSビル・クロスステラス盛岡
・monaka

花巻市

日時 2024年**12月14日(土)** 11:00~12:00

会場 ・アルテマルカン桜台店・ビフレ花巻店
・イトーヨーカ堂花巻店・コープ花巻あうる店



2 校内(職場)募金に取り組む

学校や職場で募金活動をするための募金箱やポスターをお貸しします!

3 フレンドネーションに協力する

パソコンやスマホから協力できる募金の形。詳細は、11月以降にホームページでお知らせします。



賛助会員募集

賛助会員制度は、日本国内で行うユニセフ募金活動や、広報活動、啓発活動などを会費によってご支援いただく方法です。「日本ユニセフ協会賛助会員」の会費の50%は、岩手県ユニセフ協会の活動に使われます。寄付金控除の対象となります。会員のみならずにはニュースやイベント案内をお届けしています。賛助会員へのご入会をお願いいたします。

一般会員 (個人ならどなたでも) 1口 / 5,000円

学生会員 (18才以上の学生) 1口 / 2,000円

団体会員 (団体・法人・企業) 1口 / 100,000円

● 申込書をご希望の方には郵送いたします

集めていきます! これらも募金になります

- ・使用済み切手
 - ・書き損じはがき
 - ・外国コイン
- ※お持ちの方は、ご連絡ください。

ユニセフユースボランティア募集!

ユニセフ講座の講師、ヨルダン出身のマラクさんとユニセフについて学びながら、新しい視点をユニセフに取り入れることを目的に、活動する仲間を募集します!

- ◆ 国籍：不問
- ◆ 定員：15人
- ◆ 年齢：18~30歳
- ◆ 活動期間：2年間 (8月~開始)
- ◆ 活動内容：ZOOMでミーティングや学習
・イベント企画など
- ◆ 問い合わせ 岩手県ユニセフ協会 (下記)

ボランティア募集

ボランティアは、募金活動やイベントの運営を行います。一緒に活動するボランティアを募集しています。



Iwate Association for UNICEF

2024年11月
【発行】
岩手県ユニセフ協会

〒020-0690
岩手県滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2F
TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491
e-mail : sn.iunicef_iwate@todock.coop
ホームページ http://www.unicef-iwate.jp/

ガザ、停戦が何よりも必要



▲ガザ地区中部にあるクリニックで、子どもにポリオワクチンを投与するユニセフのスタッフ (ガザ地区、2024年9月2日撮影) ©UNICEF_UNI637065_El Baba

2024年9月1日から12日にかけて、ガザ地区でポリオワクチンの1回目の緊急集団予防接種が、10歳未満の約56万人に投与されました。コミュニティと保健スタッフの安全を確保し、予防接種活動を確実に実施するために、特定した地域で1日9時間の戦闘の人的休止が合意されました。ガザ地区と近隣諸国の子どもたちを、人生を一変させてしまうポリオウイルスから守るために、迅速で安全かつ効果的に実施されました。1回目の集団接種はまだ道半ばです。4週間後に予定されている2回目の集団接種で確実に達成できるよう、関係者全員に呼びかけています。

子どもたちの死傷を食い止め、緊急に必要な命を守るための支援物資の配送を可能にし、子どもを含む、人質となっている人々を無条件で解放するために、停戦が必要です。栄養不良に関しては、現在目の当たりにしている人道支援物資搬送トラックの台数減少が懸念されます。ガザ地区内にさらに多くの搬入拠点が必要であり、すべての人の安全のための手段を講じ、命を守る物資を子どもたちに配布できるようにしなければなりません。劣悪な衛生状態には、大量のせっけんやシャンプーを運び入れる必要があります。

ガザ人道危機緊急募金にご協力をお願いします!



▲ユニセフが支援している安全な学習スペースで学ぶ子どもたち(ガザ地区、2024年9月18日撮影)

ユニセフ募金にご協力をお願いします

下記の口座については窓口の場合、硬貨手数料・振込手数料ともにかかりません

《郵便局》(ゆうちょ銀行) 振替口座

振替口座：00190-5-31000

口座名義：公益財団法人日本ユニセフ協会

※通信欄に「ガザ」と明記してください。
※明記がない場合は一般募金になります。

振込用紙をご希望の方は、岩手県ユニセフ協会へご連絡ください。

TEL 019-687-4460 (月~木 / 10:00 ~ 15:00)

ユニセフ・シアター キッツ先生の子どもたち

オランダにやってきた移民・難民の子どもたちとキッツ先生との日々を追ったドキュメンタリー

とき 2024年7月21日(日) 10:30~12:30

ところ 岩手教育会館 多目的ホール

後援 岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、
滝沢市教育委員会

参加 118名

募金額 19,565円



▲守谷会長あいさつ



▲ロビーでユニセフ支援グッズやポスター展示

来場者の感想

- 子どもたちがげなげに生きている姿に涙しました。自分の国で苦勞せずに育ってほしいのに。
- 日本では、移民をほとんど受け入れていないため、多文化・多言語への理解が進んでいないのが残念。
- キッツ先生の平等な愛が感じられました。子どもたちには紛争による心の傷が大きく影響していると感じました。
- 子どもは等しく教育を受ける権利があるということ、それが保障されていない現実に関心をもちました。一人ひとりの背景に寄り添い、丁寧に向き合い、その子のレジリエンスするキッツ先生の努力に感動しました。
- 移民・難民問題は、あまり身近な話題にはなりませんが、日本でも様々な国の子どもたちが学ぶようになってきました。子どもに寄り添う大人が大切だし、難民を出さない社会を作るのも大人の役目だと思いました。
- 移民を受け入れるということは、識字教育や心のケアが大きな課題であると感じました。大人以上にストレスを抱えている子どもたちへの献身的なキッツ先生の姿勢に心を打たれました。
- 心が傷ついている子どもたち一人一人にしっかりと向き合い、子どもの良さを引き出し、笑顔に変えていくキッツ先生。子どもの人権を大切に教育に感銘を受けました。

出前講座報告 高校・中学校・看護専門学校に出かけました！

八戸工業大学第二高等学校 2年

紫波町立紫波第三中学校 3年

水沢学苑看護専門学校 1年



生徒さんの感想より

「普通に学校に行けることが当たり前ではないことを考えて生活したい」



ユニセフスタッフ

蛇口からきれいな水が出るのが当たり前じゃない国があるんですよ。



生徒さんの感想より

水がめを持って何時間も歩く子どもたちは学校にも行けない。「学校に行きたくない」と思った自分を反省しました

ユニセフ講座 「中東地域のことを学ぼう！」

とき 2024年10月5日(土) 10:00~12:00

ところ 岩手教育会館 カンファレンスルーム

講師 佐藤 敦士さん(県ユニセフ協会 花巻友の会会長 元中学校社会科教師)
マラク・アブダヤさん(ヨルダン出身盛岡在住22歳)

参加 52名



佐藤さんのお話では、「中東地域とはどの国のこと？」とクイズで始まり、絵本の読み聞かせあり、ウクレレ弾き語りの歌ありと中東地域についてわかりやすく説明してくださいました。中東地域の歴史の説明で、問題の背景が整理でき「これからのニュースがよりわかりやすくなると思います」と感想が寄せられました。



マラクさんは「シュマーグ」というヨルダンのスカーフを身につけて登場。写真でヨルダンの国や生活のことを紹介。学校生活では同じクラスにシリアからの難民の子もいたけれど、同じアラビア語で話すので違和感はありませんでした。ヨルダンで放送されているアニメの主題歌を流して、日本のアニメの人気を話してくれました。「誰かのために行動したい」という想いの伝わるお話でした。



感想より

- ☆中東地域について知識があまりなかったので、ワークシートで理解できてよかったです。
- ☆「そうだったのか」という学びができました。
- ☆わかりやすい資料にそって中東地域のことを説明いただきました。
- ☆マラクさんのお話を聞き、ヨルダンを身近に感じました。



▲守谷会長のごあいさつ

「子どもたちのため行動」



「泣いている隣国の子どものために行動したい」と訴えるマラク・アブダヤさん(5日、盛岡市大通)

ヨルダン出身で盛岡市在住のマラク・アブダヤさん(22)は5日、同市大通の岩手教育会館で講演した。戦火が広がる中東の現状を憂いながら、国連児童基金(ユニセフ)の活動に関わり「泣いている隣国の子どものために行動したい」と訴えた。

アブダヤさん(ヨルダン出身)講演

アブダヤさんがスタッフを務める県ユニセフ協会主催の講座の中で約60人を前に講演。アブダヤさんは現地の写真を見せながら「同じクラスにシリア出身の難民もいたが(ヨルダンと)同じくアラビア語を話すので楽で壁を感じなかった」と学校生活を振り返った。
イスラエルなど紛争当事国に囲まれたヨルダンで、アブダヤさんはユニセフのボランティアを始め、結婚を機に移った盛岡でも活動を続ける。同協会内にユースチームを立ち上げ「人の痛みに寄り添い、世界や社会を変えられるチームにしたい」と意気込んだ。

10月6日 岩手日報